

実践報告

## 目的意識・相手意識に着目した外国語活動の授業づくりにおける一考察

— 教育実習での実践を通して —

松下 大介\* 佐尾 亮太\*\* 中尾きらら\*\* 松江 遥香\*\*

### A Report to Make the Lessons of English Activities Focusing to the Purpose and the Other Persons: As the Student-Teachers Teaching

Daisuke MATSUSHITA Ryota SAO Kirara NAKAO Haruka MATSUE

【要約】外国語教育においては児童にとって、必然性のある課題の解決に向けて、目的意識・相手意識をもって活動に取り組むことを前提として授業を進めている。このことは、教育実習についても同様に考える。本稿では、令和4年9月の教育実習における授業実践において、目的意識・相手意識をもって学習活動に取り組む、外国語活動における授業づくりの実践事例を挙げる。

【キーワード】 外国語活動, 目的意識・相手意識, 話すこと [やり取り]

#### 1. はじめに

本校外国語活動・外国語科では、前研究において「慣れ親しんだ語彙・表現を使って、身近で簡単な事柄についての自分の思いや考えを、内容や構成などを工夫しながら相手にわかりやすく表現しようとする能力の育成」(本校紀要第5号:201)を目指してきた。そして、外国語活動では、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、『聞くこと』『話すこと(やり取り・発表)』を通して、主体的にコミュニケーションを図る素地... (中略) ...を養うこと」(同上:202)を目指している。筆者は、令和4年度の教育実習の授業(「フィールド演習Ⅲ」で扱った単元, *Let's Try!2*Unit6)を通して、目的意識と相手意識を踏まえた外国語活動の在り方について、教育実習生の授業を基に、担当した学部生3名と共に考えた学習活動を報告する。

#### 2. 本実践について

今回(令和4年度)の教育実習における授業実践では、*Let's Try!2* Unit6を参考に単元及び授業づくりを行った。

##### (1) 課題の提示

教育実習の課題として提示した①単元の内容と②児童の実態を踏まえ、3名の実習生(以下、教生)が大学の指導の下③指導の方法と④単元の目標、評価規準を考えた。3名の実習生は、教育実習当日までに、大学の方で指導を受けながら指導案をはじめ授業づくりに努めた。

##### (2) 授業の概要

##### ① 単元の内容について

担当が、以下のような計画で進めていくように例示した。

\*佐賀大学教育学部附属小学校

\*\*佐賀大学教育学部

- 第1時 単元のゴールから課題を知り、見通しをもつ。  
 第2時 友達の好みを調べる。  
 第3時 友達の好きそうな〇〇（例：パフェ、ピザ）を考える（作る）。  
 第4時 友達のために考えた〇〇セットを紹介する。

この計画例を基に、教生が話し合い、本単元について友達の好きな野菜や果物についてインタビューし、友達が食べたいと思うような料理を考え、紹介する場面が設定されている。Let's Listen 1 で誰がどんなパフェを紹介しているのか聞き取り、Let's Listen 2 で野菜と果物についての音声を聞き、Activity 2 で友達とやり取りをする中で自分がほしい食材を集め、オリジナルピザを考え、紹介する。自分の思いや考えを表現し伝え合う力の育成を目指すことができる単元であると考え授業づくりを行った。

## ② 児童の実態について

担当学級の児童は、毎回の外国語活動を楽しみにしている児童が多く、ほとんどが積極的に発言したり活動に取り組んだりすることができる児童が多かった。しかし、仲の良い友達とだけでやり取りをして、クラスの中での男女ペアでの活動は少ない。そして、伝え合いの態度や様子には課題が見られた。

本単元に関する実態としては、果物や野菜に関する英語表現については、十分に慣れ親しんでおり、進んで口ずさむことができる状況であると判断した。

## ③ 指導の方法について

本単元では単元のゴールの活動として、「先生たちが喜ぶピザセットを考えよう」という活動を設定した。友達の好きな食べ物をインタビューし、どうすれば友達が喜んでくれるのか考え、紹介することを目的とした。本単元で主に指導するのは話すこと(やり取り・発表)である。また、果物や野菜に関する英語表現について十分に慣れ親しんでいる児童が多いため、たくさん使用することができるような活動を設定した。

## ④ 単元の目標と評価規準

単元の目標を、好きな食べ物や欲しい食材について尋ねたり要求したりするとともに、どうすれば相手が喜んでくれるのかに配慮しながら、自分のオリジナルメニューを紹介することができるとし、評価規準を表1のように設定した。

表1 本単元における評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと (やり取り)	曜日の言い方や曜日を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。	自分の好きな曜日について、尋ねたり答えたりして伝え合う。	相手に配慮しながら、自分の好きな曜日を伝え合おうとする。

## 3. 実践の内容

以下では、大学で指導された授業以外に設定した時間について述べていく。

### ① 2/5時目について

この時間は、表現への慣れ親しみの時間である。本単元のゴールの相手を、教生3名と本校に勤務するALTとし、「先生たちが喜ぶピザセットを考えよう」という目的(単元のゴール)で取り組んでいくように設定した。これらのことを児童に理解させ、意識してこれからの活動に取り組むことができるようにした。



図1 教生が提示したゴールの創作物の例

児童の活動

- 1 挨拶をする。
  - 2 本時のめあてを知る。
- すきなものをたずねて、オリジナルピザを考える準備をしよう。
- 3 好きなものを尋ねる。
    - ①全員で教生が好きなピザの具材を尋ねる。
    - ②隣同士・前後・斜めで好きなピザの具材を尋ね合う。
  - 4 3名の教生が好きなピザの具材をもとに、ピザに乗せる具材を考える。
  - 5 具材カードをやり取りする。
    - ① 教師のデモンストレーションを見る。
    - ② 全体・隣同士でやりとりを役割読みする。
    - ③ 隣同士で、具材カードのやり取りをする。
  - 6 本時の振り返りをする。

本時（2／5時目）では、まず、単元のゴールを全体で確認し、先生たちのためにピザのレシピを考えるためには、「何を知りたい?」といった発問から、めあてを挙げた。次に、ピザの具材例を教生が提示し、好きな具材を尋ねる表現を確認し、慣れ親しむ意図をもって教師と全体での Small Talk を行った。（図1）

・〈教生が用意した具材例〉

トマト、きゅうり、とうもろこし、たまねぎ、人参、ピーマン、ジャガイモ、パイナップル、しいたけ、サラミ、ソーセージ、キャベツ

児童は、「What do you like?」—「I like ○○.」に慣れしむために、教生と数回やり取りをして表現に慣れ親しんだ。その後、尋ねた食材名を確認し、食材名についても慣れ親しむことができた。

5の本時の中心活動では、児童個人で友達や教生がどんな食材をのせたいのかを予想して取り組むように促し、聞いた食材をワークシートに記入するようにした（図2）。指導の面では、活動ごとに説明→活動→確認というサイクルを回しながら、全体に声掛けをしたり、机間指導で児童を支援したりした。終末場面では、次時（3／5時目）にショップを設置して買い物する活動を設定するため、その際にスムーズに活動できるよう、買い物で使う英語表現に慣れ親しむようにした。



図2 児童と教生のやり取りの様子

・〈次時（3／5時目）で扱う表現の例示スクリプト〉

Z : What do you want?	X : I want apples.
Z : How many?	X : Two, please.
Z : Here you are.	X : Thank you!

そして、単元の振り返りシートを用いて、「先生や友達がすきなものを知ることができたか」、「英語でほしいものを伝えたり、たずねたりすることができたか」という視点で振り返らせた。

②3／5時目について

本時（3／5時目）では、実際に先生たちにオリジナルピザを紹介するために、尋ねて得た情報を基に食材を集める時間であった。食材を集める際には、「買い物」の要素を取り入れ、単純なやり取りにならないように工夫していた。児童も、欲しいものを好きなだけもらえるのではなく、限られた範囲内でのように教生が喜んでくれるピザを作るか思考を働かせることができ、本校の研究にも沿う活動になっていた。そして、本単元の言語材料であった「What do you like?」だけではなく、「What do you want?」—「I want ○○.」という応用の表現を使っでの活動となり、場面によって使う表現が変わることに気付

いていた。

### 児童の学習活動

1. 挨拶をする。
2. 本単元のゴールの活動を思い出す。
  - ①ALT や実習生がピザが好きなことを思い出し、先生達のために野菜や果物を使ったピザのレシピを考えることを確認する。
  - ②ピザの具材の単語の確認をする。
  - ②教生の好きなものを確認し、提示された野菜の中から ALT の好きなものを尋ねる。
3. 本時のめあてを知る。
 

ほしいものをたずねたりして、先生達のためのピザを作ろう。
4. ピザのレシピを考える。
  - ①教師が作ったピザのレシピを見る。
  - ②活動の説明を聞く。
  - ③個人で、ピザ名と、ピザに乗せる具材とその数を決める。  
※コイン上限 10 枚でピザの具とその数を決める。
5. ピザの具材カードをやり取りする。
  - ①買い物に必要なやり取りを考える。
  - ②教師のデモンストレーションを見る。
  - ③全体・隣同士でやりとりを復唱(役割読み)する。
  - ④野菜・果物カードのやり取りをする。
6. ピザのレシピを完成させる。
7. 本時の振り返りをする。

本時（3 / 5 時目）では、まず、本単元のゴールを思い出させ、ALT を含む先生達の食生活ために(英語を使う必然性)野菜等を使ったピザのメニューを考えるという、児童の考えや気持ちを取り入れるようにした本単元のゴールの活動の確認を行った。指導としては、その際、図1のような模造紙サイズでピザレシピ(本単元のゴールの活動)の例を提示し、ゴールをイメージさせるようにし、野菜のみのピザを見せて味気ないことに気づかせることで、スペシャル具材を一人一つ自由に用意できることとし、チーズやソース類はクーピー等を用いてピザの台紙に直接かくことにした(図3)。このことにより、児童が相手意識をもって考えや思いを更に表出できるようにした。

確認後、個人でピザのレシピを考えさせ、自分が使いたいピザの具材の数を、買い物リストに記入させた。そうすることで、自分の考えや気持ちをもって、買い物に臨むことができていた。また、本時においても、活動ごとに説明→活動→確認のサイクルを繰り返して、戸惑っている児童や早く本時の課題が解決した児童への対応や指導を行うようにしていた(図4)。

・〈買い物ごっこのスクリプト例〉

店員: What do you want?  
 客 : I want potatoes.  
 店員: How many?  
 客 : Two, please. How many coins?  
 店員: Two coins, please.  
 客 : Here you are.  
 店員: Thank you. Here you are.  
 客 : Thank you . See you.



図3 本時の活動の説明の様子



図4 買い物ごっこの様子

そして、買い物のやり取りで得た野菜・果物カードを使って、ALT のためのピザレシピを完成させていた。振り返りでは、「欲しいものをたずねたりすることができたか」、「〇〇先生のためにピザのレシピを考えることができたか」の視点で振り返るようにした。

③ 4 / 5 時目について

児童の学習活動	
1. 挨拶をする。	
2. 本単元のゴールの活動を思い出す。	
① 前時に買い物活動でやりとりしたピザの具材の英単語の確認をする。	
② 前時の買い物活動でのやりとりを確認する。	
③ ALT や実習生がピザが好きなのを思い出し、先生達のために野菜や果物を使ったピザのレシピを考えることを確認する。	
④ 先生達の好きなものを確認する。	
3. 本時のめあてを知る。	
	先生達のためのピザを完成させよう。
4. ピザを考える。	
① 活動の説明を聞く。	
② 誰にピザを作るかとピザ名、ピザに乗せる具材、スペシャル具材を決める。	
5. ピザを完成させる。	
6. 本時の振り返りをする。	

④ 5 / 5 時目について

本時（5 / 5 時目）は、前時（4 / 5 時目）で作成した創作物を児童同士で紹介し合ったり、実際に ALT や教生に伝えたりした。児童は自分たちがどのような思いで作成したのかをお互いに考えや思いをこれまでに学習した表現を用いて表現した。児童は友達がどんな考えや思いをもって作成したのか、同じ食材なのに並べ方やトッピングが違うことについて尋ね合い、互いに相手のことを理解し認め合うような活動になった。

児童の学習活動	
1 前時までの内容を振り返る。	
2 本時のめあてを知る。	
	先生たちのためのオリジナルピザをしょうかいしよう。
3 紹介のモデルを見て、紹介する見通しをもつ。	
4 紹介のモデルを復習して、ポイントをおさえ、ペアで紹介し合う。	
①誰に向けて作ったのか確認する。	
②どんな食材が入っているか確認する。	
③ピザの名前を確認する。	
5 ピザセットを紹介する。	
①自由に歩き回って友達や先生たちに紹介する。	
②相手からサインをもらう。	
	<p><b>【B 児の紹介の実際】</b>                      This is for Y sensei.                      Tomato, salami, cabbage, onion, tomato source.                      This is colorful pizza.</p>
6 本時の振り返りを行う。	

本時では、まず、児童が前時までに学習した内容を復習することができるように、**Small Talk** として教師が児童に対して食材の種類やどんなピザにしたのか、いくつか質問した。その後ペアでそれぞれのピザの内容について確認する時間を取った。教師は、これまでの表現の慣れ親しみの状況を把握することができた。同時に、児童はこれまでの学習を振り返りながら本時で紹介するための思いを伝えるための表現の確認をすることができた。内容を分かりやすくするために絵カードを用いることで図3のように黒板に掲示して視覚的な支援を行った。

伝え合う場面では、児童が紹介文を考えるときのヒントとなるように、まず教師が紹介モデルの内容を振り返った。児童が伝え合っている際は、机間指導を行い、活動中の質問に対応した。また、1人の児童の疑問が出た時には中間指導を行い、全体で共有して理解を深めるようにした。児童は、友達との食材などの内容を見比べたり、紹介する順序に着目して聞き合ったりして、お互いに考えや思いを尋ね合う姿が見られた(図5, 6)。

終末の場面では、本時及び本単元での学びを振り返った。児童の振り返りの多くには、ALT や教生と活動できたこと、紹介できたことへの喜びや達成感が書かれていた。その中で、次の単元以降への本単元でできたことを生かして活動に向かおうとする意欲や見通しをもつ児童の姿が見られた。



図5 児童同士の紹介の様子



図6 教生へ紹介している様子

#### 4. まとめ

本実践は、目的意識と相手意識を意識した単元づくり、授業づくりにポイントを置いて教育実習中の教生の指導と支援を行った。教生はそれぞれに自分たちの考えや思いをもって本実践に臨み、児童は単元を通して目的意識・相手意識を維持させることができた。それにより、児童は考えや思いを単元のゴールの活動に乗せて取り組むことができた。これは、単元の振り返りにおいて、児童は活動の楽しさや達成感を感じることができていた。

本実践から、少なくとも外国語活動においては、単元を通して目的意識・相手意識をもって学習活動に取り組むことができるような単元づくり・授業づくりが必要であることを再確認することができた。そして、そのためには、学習指導要領に沿って考え、題材を児童の実態に合わせて組み立てるように心がけることが必要であることを教育実習を通して教生の実践から学ぶことができ、改めてその重要性を認識することができた。

今後も、学習指導要領に沿って、児童が目的意識・相手意識をもって活動できるような単元づくり・授業づくりに努めていきたい。

#### 【謝辞】

教育実習のためにフィールド演習Ⅲのご指導に当たられ、実習生が積極的な姿勢をもって教育実習に臨めるようにご指導・ご助言いただきました佐賀大学教育学部 准教授・林裕子先生に厚く御礼申し上げます。

#### 〈引用・参考文献〉

- ・文部科学省 (2018) 『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』 開隆堂。
- ・文部科学省 (2018) 『外国語活動・外国語研修ガイドブック』。
- ・文部科学省 (2018) 『Let's Try! 2』 東京書籍, pp. 26-29。